



令和2年11月1日現在
 総世帯数 7,868世帯
 総人口 17,226人
 男 8,616人
 女 8,610人



例年開催される「芳川ふれあいウォーキング大会」が、
 新型コロナウイルス感染症予防の観点から
 中止となりました。その代わりに、今年度初めて
 「街中ふれあいウォーク」を
 密を避け3日間に分けて実施しました。

ふれあいウォーク

「知っているようで知らなかった」新しい発見をもとめて松本城周辺、中町通り周辺、あがたの森周辺を中心とした3つのコースに分かれて散策するウォーキング事業です。

柏澤公民館長による解説を聞きながら、松本中心部の町の歴史や文化、街の成り立ちを実際に歩いて、松本の魅力を再発見しました。

普段は立ち入ることのできない史跡や、車で通り過ぎてしまうことの多い細い路地などを歩くことで、昔の街並みに思いをはせたり、子どもたちの思い出などを語り合う、楽しい時間を過ごしました。



野溝緑地オープン！マレットゴルフ大会開催！



優勝 森川 恒一さん



スコア104 恒一さん
 スコア110 茂寿さん
 スコア112 勇さん
 優勝 森川 恒一さん
 準優勝 水谷 茂寿さん
 3位 奈良尾 勇さん

第2回目となる芳川公民館長杯マレットゴルフ大会が10月26日(月)(23日から雨天延期)に開催されました。

秋晴れの空の下、29名のプレイヤーが18ホール2ラウンド、ディスプレイスタンスを保ち、交流深めながら回りました。第1回を超えるハイスコアの戦いの中、104(パー144)で森川さん(北原町)が2代目チャンピオンに輝きました！

出張たいそう講座&芳川公民館長講話

コロナ禍の終息が見えない中、身体を動かすこと、外出することが減り、体力低下が危惧されています。

そこで、ご自宅で気軽にできる運動を紹介する出張講座を芳川地域づくり協議会健康・福祉部会と公民館共催で行っています。10月から12月までの3カ月間、希望町会の町内公民館で柏澤館長の芳川・町会の話と、地区のスポーツ推進委員と丸の内病院スタッフによる体操をしています。参加者は「近所の方たちと久しぶりにあった」「館長の話は、ためになる」「自宅でも簡単にできそう。続けてみる」と口々に話していました。



野溝ホウキづくり

芳川農村女性委員会では10月11日(日)、芳川伝統の野溝ホウキづくりにチャレンジしました。材料となるホウキキビは会員中心に播種、管理、刈り取り、乾燥を行い、当日を迎えました。講師は芳川富農の皆さん。



会長の林昌美さんは「ホウキづくりは思った以上に力仕事！編み込み、締め具合で出来が変わるので、力と技の結晶。ずっと残していきたい大切な伝統」と話してくれました。



▲芳川富農の皆さんと芳川農村女性委員会の皆さん

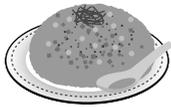
信州の名工受賞!

優れた技能を持ち、県内産業の発展に功績があった人に贈られる信州の名工を、村井町の『榎林』兵藤オーナーが受賞しました!



地域貢献と人材育成に力を入れた活動を行い、今回の受賞となり、兵藤さんは「大変名譽なことです」と笑顔を見せてくれました。

榎林は創業39年。村井駅前にて家族一丸で、バラエティに富んだバラエティに富んだ中華を作り続けています。



シニア短期大学

芳川

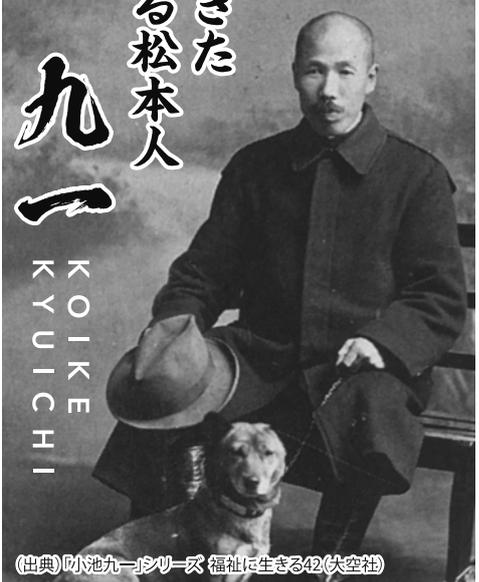
講師: 柏澤由紀一

Vol.3

報恩に生きた
知られざる松本人

小池 九一

KOIKE
KYUICHI



(出典) 小池九一抄 文芸春秋社

15歳で番頭になった九一は、紙問屋の仕事にも精通し、大いに三嶋屋を盛り立てました。寸暇を惜しんで独学で読み書き、知識を身に付け、紙の値動きや海外の事情にも詳しくなっていました。10年の年季があける明治30年には、20歳にして大番頭になっていました。九一は三代目となっていた店主から懇願され、3年間のお礼奉公の後、三嶋屋を去りますが、その後店はすたれて、遂には閉店に追い込まれました。

三嶋屋時代も九一は慈善寄付を続け、旧藩主の子爵戸田康泰から表彰されています。九一は、松本時代に元薩摩藩士で男爵の高崎正風が会長を務める慈善事業団体「彰善会」を知り、これに加入し、短期間で会員を600人も集め松本支部を結成しました。九一は会を通じて、例えば県外の事例でも外国人でも良い行いをした人に、例えば人助けをして怪我をした巡査がいると知ると自分の慈善貯金から見舞金と激励文を送ったのです。

九一は、しがらみのない新天地の北海道に渡ることを決意し、東京に高崎を訪ねると、高崎会長は、北海道の知名人への紹介状とこれまでの貢献に対する感謝の品を手渡しして激励したのでした。(次号に続く)

●芳川シニア短期大学受講者随時募集中! 詳しくは芳川公民館まで

たちばなし

ここ何年も本を読んできていなかった。ところが、つい半年前に古い本棚にあった歴史漫画を読み直したことがきっかけで、何となく歴史小説が読みたくなった。

ふらりと書店に入り、全く知らない女性作家の歴史小説を買い、理解力の落ちた頭ではあるが何とか読み切った。

この作家の別の作品が読みたくなると書店に行ったら無い。ネットで検索して書店に注文しようと思ったが、電子書籍の案内が目に入った。電子書籍には少なからず脅威を感じず紙関係の仕事をしている自分ではあるが、初回の割引に釣られて購入してしまった。すぐ読める。字も大きくできる。悔しいけれど便利さを知ってしまった。続けて三冊、同じ作家の作品を購入。この方の作品の系統が見えて来てしまったので、違う方の作品を検索し、映画にもなった大作を買ってしまった。ページ数膨大でまだ読み終わっていない。

どっぴりと電子書籍にハマってしまい、これでもいいのだろうか、と...